

# 福良港津波防災ステーション

福良港津波防災ステーションは、津波防災に関する2つの目的をもった施設です。保育所から小学校、中学校まで多くの子供たちが利用しています。また、県内外、海外から視察や研修にたくさんのひとが訪れます。

1. 津波に備える知識を広く皆様に知っていただく施設です。
2. 地域の皆様が、交流活動を通して、広く防災ネットワークを作っていただく拠点です。



愛称は『うずまる』です。うずしおのようにまわく、福良の町を守る。



## 福良地区津波避難7箇条

- ① 揺れが小さくても1分以上揺れたら、すぐ避難。
- ② 30分以内に避難場所へ逃げる。こと。(福良では)
- ③ てんでんばらばらで逃げられる信じあえる家族づくり、地域づくり。
- ④ 少しでも高いところを目指すこと。
- ⑤ 建物へ逃げ込むのは最後の手段。
- ⑥ 一度避難したら、絶対に家に戻らない。
- ⑦ 避難のためにも、住宅の耐震化、家具の固定。



コロナ禍にもかかわらず、お越し頂いた皆様、ありがとうございました。

## 来館実績等

来館者数(人):  
平成22年9月～令和4年2月まで

平成22年度	8,307
平成23年度	17,933
平成24年度	19,248
平成25年度	16,520
平成26年度	17,408
平成27年度	15,216
平成28年度	16,912
平成29年度	19,182
平成30年度	22,317
令和1年度	19,768
令和2年度	12,739
令和3年度	13,419
令和4年度	15,257
合計	214,226

※平成22年度は開館した9月から3月まで。  
※令和4年度は2月末まで。

津波防災と観光の両方に取り組んでいることが福良の自慢です。



はとさき  
波戸崎リーダー

防災の取組を通じて、福良の「ひと」「まち」を知ってもらいたいです。



たにぐち  
谷ロリーダー

自分で体験した防災の取組をみんなに伝えていきたいです!



また  
多田リーダー

◆福良港津波防災ステーションでは、学習リーダーが常駐し、津波に対する防災学習を行っております。より多くのおみなさまにご来館いただきますようお待ちしております。



## ◆福良港津波防災ステーション

開館時間: 10:00～16:00

休館日: 毎週月曜日(※月曜日が祝日の場合、翌火曜日が休館日となります)

〒656-0501 兵庫県南あわじ市福良甲 1528-4

TEL: 0799-50-2381 FAX: 0799-50-2382

URL: <http://www.tsunami-bousai.info>

E-mail: [info@tsunami-bousai.info](mailto:info@tsunami-bousai.info)

# 福良港津波防災ステーション かわら版

第12号 令和5年3月



## 福良津波防災フォーラム2022を開催しました!

### ■開催概要

日時: 令和4年12月11日(日) 13:00～15:20

場所: 南あわじ市福良地区公民館

内容:

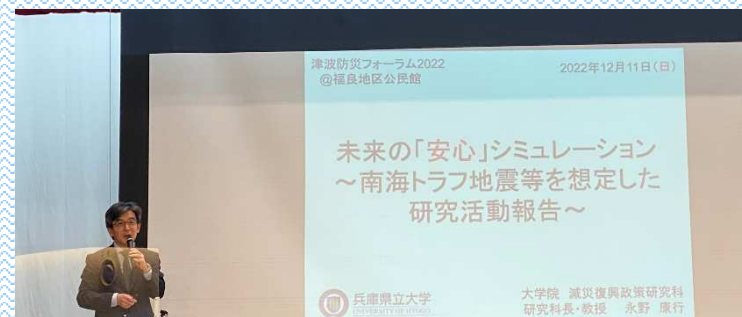
- (1) 南海トラフ地震を想定した研究活動についての報告  
講師: 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 研究科長・教授 永野康行 氏
- (2) 歌を通じた災害文化の形成についての講演  
インドネシアの島で語り継がれる津波についての民謡や活動について  
講師: 防災士・兵庫県立大学大学院 客員研究員 “神戸発” 防災音楽ユニット「Bloom Works」 榊田和宏 氏
- (3) 南あわじ市立福良小学校児童代表による活動発表  
「福良小学校の防災学習を通して～今、わたしたちが考えること～」

主 催: 福良地区防災フェスタ実行委員会  
(福良地区連合自治会、淡路県民局、南あわじ市)



「津波防災日本一を目指すまち福良」をコンセプトとして、福良地区の観光とまちづくり、津波防災を併せた防災力の向上を目的に、福良地区の住民の方、大学などの研究機関、行政関係者など約90名が参加しました。

### ■南海トラフ地震を想定した研究活動について



地震発生を想定した場合、居住者の安心や不安という気持ちは居住している建物の性能に依存する等の調査結果について紹介がありました。

### ■歌を通じた災害文化の形成について

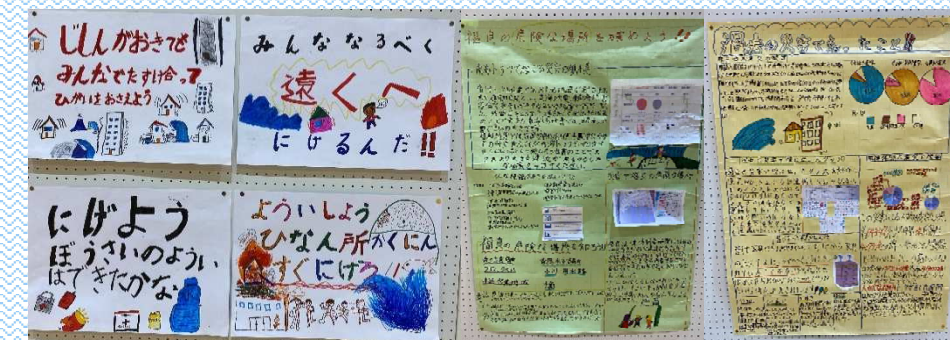


インドネシアの島には、Smong という津波被害の言い伝えが歌い継がれていること等の紹介がありました。

### ■活動発表



福良小学校の児童が、防災学習や防災訓練等で経験し、学んだことを発表しました。



会場には、福良小学校の児童が作成した防災標語や、地震が起きた時の対策や過去の災害など、学習してきたことをまとめた模造紙が展示されました。

# 町なか水族館「ギョギョタウン」のご紹介



福良商店街にある「ギョギョタウン」は、誰でも自由に訪れることのできる町なか水族館です。港で揚げられたヒラメやウナギなどの魚や、近所の方から譲ってもらった金魚やメダカなどを展示しています。

古民家をリノベーションした建物で、水族館は1階に、2階には塾が開かれており、放課後は子どもたちが集まります。その子どもたちが、図鑑を持って、水族館にも訪れ、魚の種類を調べ、スタッフに教えてくれるそうです。

水族館の横では、「福ちゃん焼き」というふぐの形をした回転焼きを土日限定で販売しており、近所の人たちに人気。ギョギョタウンは、子どもからお年寄りまで幅広い世代が集まる憩いの場となっています。



大小さまざまなお魚が泳ぎまわる水槽や大漁旗がすばらしい！！

「福ちゃん焼き」は、福良・幸福・ふぐを掛け合わせた名前です～



## 防災力の高い町へ ～ギョギョタウンや福良のまちへの想いをお聞きしました！～

ギョギョタウンのボランティアスタッフである河野さん。ジョイポートと商店街を繋げることで、町なかに賑わいを復活させ、起業したい若者に福良の町を選んでもらえるようにしていきたいという想いで活動されています。

「土日だけでも、商店街に屋台のようなものを出すことができれば、観光客にも来てもらえるかもしれない。また、若い人が集まる町になることは、高齢者の多い町よりも防災力の高い町にもつながると思う。福良商店街が日常の動線となることで、津波の際の避難ルートとなるという認識も広めていきたい。」と語られました。



魚たちのお世話をしている地域の皆さん (一番右が河野さん)



河野さんが考える まちなかの活性化イメージ

# 令和4年度 福良小学校防災研修会の報告

## ■ 報告概要

日時：令和4年11月20日(日)

場所：福良地区各一時避難所

福良小学校 各教室

- ・地域の避難訓練
- ・地域、市、学校合同防災研修会 (避難に関するワークショップ等)

南あわじ市総合防災訓練の日に行われた「福良小学校防災研修会」。南海トラフ巨大地震等が発生し、和歌山県沖を震源とするマグニチュード9.1の地震による震度7の強い揺れが観測され、津波警報(大津波)が発表されたという想定のもと、訓練が行われました。

午前9時、市内全域に鳴り響くサイレンに合わせて、シェイクアウト訓練や一時避難場所への避難などが行われました。その後小学生や市役所職員、地元住民が福良小学校に集まり、避難所に関するワークショップや、避難所開設時受付を市のマニュアルを参考にして実践しました。



避難所に関するワークショップの様子



避難所開設時受付の様子

## シェイクアウト訓練とは・・・?

「まず低く」、「頭を守り」、「動かない」の順に、身を守る行動をとり、大きな地震に備えるという訓練で、各家庭や職場でも行うことができます。(南あわじ市HPより引用)

## 円卓会議 ～福良地区の観光まちづくり、津波防災を併せた防災力の向上に取り組んでいます～

円卓会議は、福良町づくり推進協議会、学識者、教育関係者、南あわじ市、兵庫県との協働により運営しています。

「津波防災日本一を目指すまち福良」をコンセプトに、令和4年度は、津波防災フォーラムやうずまるフェスタの実施に関する意見交換のほか、座長の奥村先生からはギョギョタウンを事例とした研究成果の紹介や福良小学校と一緒に取り組まれた防災ウォークラリーなど、福良での防災まちづくりに関する取組状況についてご報告がありました。



令和4年7月4日 円卓会議(福良地区公民館)

## 福良港湾口防波堤 ～避難を前提に浸水被害を軽減することが整備目標～

福良地区では、津波から逃げる対策である「ソフト対策」と、福良港湾口防波堤の整備など津波から守る対策である「ハード対策」によって総合的な防災対策を行っています。



うずまると福良港湾口防波堤の位置



工事中の福良港湾口防波堤

※文、写真：福良港湾口防波堤パンフレット 津波防災インフラ整備計画(2020年7月版)